

第1回佐久市浅間地区小・中学校あり方検討委員会概要

日時	令和6（2024）年6月4日（火）午後6時30分～8時25分
場所	佐久市佐久平交流センター 第5会議室
委員出席 （敬称略）	戸塚榮次、山口万夫、今井文雄、磯貝修、山口元気、北山浩一、亀谷佳奈、星野克幸、井出健太、山浦裕治、須藤隆、森泉雄二、高橋幸彦、黒沢知博、藤澤直子、宮島卓朗、宮森伊智朗、大池明、金澤英人、神津利信（20名）
事務局	吉岡教育長、佐々木学校教育部長、藤巻学校教育課長、小林主幹指導主事、油井課長補佐、大井学務係長、土屋教育施設課長、学校教育課井出、岩崎

会議事項
<p>（会議に先立ち委嘱書の交付）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 教育長あいさつ 3 自己紹介 4 佐久市浅間地区小・中学校あり方検討委員会について（事務局から説明） 5 会長・副会長の選出 →大池明委員を会長に、戸塚榮次委員を副会長に選出 6 会長・副会長あいさつ 7 会議事項（事務局から説明） <ol style="list-style-type: none"> （1）浅間地区小・中学校の現状と課題について （2）今後の進め方について （3）その他 8 閉会

委員から出された主な意見（要旨）（「⇒」：事務局からの回答）
<p><（1）浅間地区小・中学校の現状と課題について、（2）今後の進め方について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅間中学校の現状は、生徒が多く、建物の構造上、一つの廊下に集中して、過密状態になっているため、安全面に心配がある。小学校の対策を講じたとしても、その子どもたちが浅間中学校に上がってくることを考えると、将来、どのような状態になったら、どういう対策を講じるかというトリガー設定を考えるよりも、別の対策も考えていく必要があると思う。 ・佐久市としては、今後、この佐久市の人口を増やしていこうという考えなのか。 ⇒佐久市としては、佐久市の発展の活力を失わないために、人口を増やしていきたいと考えている。 ・子どもたちの人数が増えていることは有難いことで、子どもたちが、将来、佐久市を出て、また戻ってくるような地域づくりも必要だと感じた。特別支援学級の人数がかなり増えていて、ここを支える仕組みが必要だと思った。今後、浅間中学校に一極集中していくということであれば、中学校のあり方も考えていかなければならないと感じた。 ・資料にあるメリット、デメリットは一般的な状況だと思う。大規模校だからといって、子ども一

人一人に目が行き届かないかというところでもないと思う。ただし、物理的な面では様々な制約が出てくると思う。

- ・小規模校ということで、例えば、資料にある切磋琢磨する機会が少ないかというところ、工夫次第だと思っている。ただし、教員数が少ないので、やりくりが難しかったり、一人当たりの仕事の負担が多くなるといったことは実際ありうると思う。
- ・この検討委員会の準備会では、高瀬小学校についても協議されたのか。
⇒具体的に協議したわけではなく、これから議論を進めてまいりたい。
- ・今後、人口推計業務を外部委託するに当たって、市の今後の開発計画や周辺の道路の整備計画などが人口推計に大きく影響してくると思う。市として、どこまで情報を出していけるかが重要だと思うが、どのように考えているのか。希望としては、開発の情報を細かく出していきたい。
⇒人口推計に当たっては、現状の開発傾向や、どのエリアで開発される可能性があるのかなどを考慮した上で、推計をしたいと考えている。また、開発の状況に応じて、幅を持たせた推計をしたいと考えている。
- ・資料の推計の中で、特別支援教室が不足している学校が目立っているように感じた。一つの教室を2つに分けて使っていることもあると思うが、単なる教室数の数字合わせではなく、現状を見ながら、子どもたちにとってより良い教育環境を確保する観点から議論する必要がある。
- ・これから教職員の働き方改革が非常に大きな問題になってくる。教職員の働き方改革が、この学校のあり方にどう影響してくるのかを考えていかなければいけないと思う。
- ・今、学校で何が課題になっているのか、そして何を改善していかなければいけないのか、それらをどう考えていくのかが一番の考え方で、そこからいろいろな対策の選択肢が出てくると思う。

< (3) その他（これから検討を始めるに当たっての各委員からのご意見） >

- ・中佐都地区の育成会では、小学校の先生の手を煩わせないように、事業の規模を縮小している。設備的な部分もあると思うが、教職員の人数が足りているのかなども十分な議論をしていただきたい。
- ・この資料の中で、高瀬小学校だけが他の地区とは違う方向であり、非常に危機感を感じている。高瀬小学校付近の幹線道路は、狭隘であり、交通量も多いので、子どもの安全のためにほかに幹線道路を整備してもらいたい。また、高瀬地域の活性化のために新たな事業をお願いしたい。
- ・現役の保護者や未就学児の保護者の意見を聞くような場を持っていただきたいと思う。
- ・学区を超えた新しい学校があってもいいのかなと思った。例えば、スーパー探究校のような特化した学校とか、浅間地区だけでなく、市全体で考えられるようになればいいなと思った。
- ・多くの声を拾っていただきたいと思う。また、この資料にはないやり方がいっぱいあると思うので、いろいろな意見を取り入れて検討できればと思う。
- ・学校規模が大きい、小さいではなく、子どもがどういった教育を受けられるのかが大事になってくると思う。通学区が決まっているのであれば、どこの学校でも同じ水準の教育が受けられることが大事だと思う。
- ・実際に学校現場を見る機会があってもいいのかなと感じた。
- ・小学校の特別支援学級児童数の増加は、すべて浅間中学校に影響してくるので、このことが浅間

中学校の問題をさらに難しくしている。

- ・佐久平浅間小学校については、今後、児童数が増加していくことで、工夫ではどうにもならない物理的、人的な課題が生じてくる。また、佐久平浅間小の過大規模化は、浅間中の過大規模化にもつながるので、浅間地区全体を見通した大胆な対策を考えていく必要があると思う。それには、多額の予算が必要になってくると思うが、教育施策の充実は、佐久市の発展にもつながると思うので、この検討委員会ではそういった議論ができればと考えている。
- ・中佐都小学校については、改修工事により、今年度から普通教室数が増えているが、少人数学習などで使っているので、もっと教室が欲しい状況である。また、教室を増やしたことによって、会議室が一つなくなってしまった。小学校の対策のみを考えるのではなく、浅間中の課題の解決につながるような対策を考えていく必要がある。
- ・高瀬小学校については、老朽化が進んでいるが、150年続く、地域に守られてきた学校であるので、みんなにとって良い方向になるよう十分な議論や検討がなされるべきだと思う。
- ・教育は学校や保護者だけが責任を負うものではないと思うので、地域としてできることを考えていければと思う。
- ・子どもを中心に、子どもにとって何が一番良いのかを最優先して議論を進めていければ良いと思う。
- ・今、学校が求めている教育は、1つの授業やクラスであっても、子どもたちがいくつかの場で学ぶことができる環境だと思う。この委員会の中では、子どもたちが窮屈な思いで、勉強するのではなくて、豊かでゆったりとした場で人間関係を結びながら教育活動を展開できる土台作りを考えていかなければいけないと思う。
- ・浅間中学校の対策については、一つの案として、中高一貫校の可能性を考えてはいかがか。中高一貫校のメリットは学力向上にあるので、屋代中高一貫校のように、実績を上げれば、佐久地区の進学校になるのではと思う。